

2022年 5月 27日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 つなぐ三鷹の会 代表者名 成田 ちひろ

1 視察年月日	2022年5月23日（月）13：00～15：00
2 視察者氏名	<u>成田 ちひろ</u> <u>計 1人</u>
3 視察先	熊本県熊本市（オンライン視察）
4 視察項目	学校に登校が難しい児童生徒への教育ICTを活用したオンライン学習支援（「フレンドリーオンライン」）について
5 視察結果等	<p>熊本市の教育委員会の不登校児童への支援「フレンドリーオンライン」の取組みを学んだ。（視察形式はZoomでのオンライン視察。）</p> <p>・導入の経緯 コロナ禍で全国的に不登校児童数が増加しているが、熊本市でも不登校児童数が増加した。その中でも、フリースクールや適応支援教室（熊本市では「フレンドリー」という名称）などにも行けない、社会とのつながりの全くない子どもたちもいるとし、まずは実態把握のため、100日以上の欠席がある不登校児童生徒の数を調査で把握した。</p> <p>熊本市ではLTE対応のタブレットを使用しており、自宅から出なくても支援が受けられる、また自宅でなくてもどこでもつながることができるようになったという前提にたち、文科省の通知（「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」令和元年10月25</p>



日付け) にもある社会的自立を目指し、不登校児童の新たな選択肢となるようオンライン学習支援「フレンドリーオンライン」の取り組みを始めた。

・先進的だと感じた点

①一人一人のペースで安心して参加できるような配慮

リアクションボタン、chatなどで、ゆるやかな双方向を

ZOOMのフォーカスモードを活用し、生徒同士は見え、先生には顔が見える(画面オフもちろんOK)

学校っぽさを出さないネーミング(例 朝の会➡スタートタイムなど)

その日の心身の状況で参加できる

②前向きな姿勢

録画ではなく、生配信をしている

先生が全力で画面越しに呼びかけたり、リアクションしたりしている

昨年度試験運用で、今年度から本格稼働。内容をさらに充実させ、InspireHighを活用したキャリア教育を取り入れる

出席した時間を記録し学校へ報告。出席扱いの判断へつなげる

③手続き面での心理的ハードルを下げる

学校を通さずに、教育委員会に直接申し込める(1か月体験(教育委員会申込)。継続して受ける際には学校での手続きへ

④周知の方法

教育委員会の作成したリーフレットを、各学校から全児童に配布。不登校になり始めの子の申込みもある。

⑤オンライン専用教室の設置、オンライン専任の先生の採用

各学校で先生にお願いするのはかなり負担が重い。また、定点カメラでは、知っている子が写っていたり、学校っぽさを感じたり、楽しくない、など双方向になりづらい。

➡学校の先生が片手間にするのではなく、フレンドリーオンラインのための先生(再任用)を採用。拠点の小中学校で、空き教室を活用し、それぞれ3スタジオ用意した。

・施策効果について

満足度が高い。登校につながった子どももいる。また、保護者アンケートでも、「1人ぼっちなので、つながりができて安心」「学

校に行けたり行けなかったりで親子で疲れ切ってしまうので、ありがたい」「その日の心身の状況で参加できてありがたい」といった声があったとのこと。

・考察

子どもたちの目線で、非常に熱量高く取り組まれていることに感銘を受けた。またこの取り組みは、教育機会の確保という視点ももちろんあるが、社会とのつながり、居場所としてという点が新しく感じた。選択肢が増えることで、救われる子どもも出てくるだろう。三鷹市で同じような状況にいる子どもたちへどのようなことができるのか、具体的に考え提案につなげたい。